

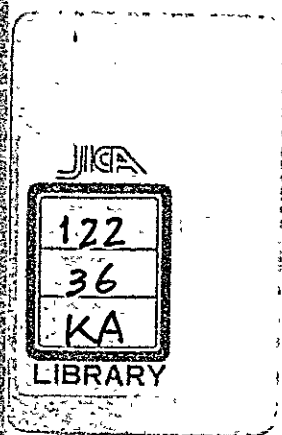
)-71-6

南タイ優先開発プロジェクト・リスト

(対DAC諸国への技術援助要請)

昭和47年3月

総務部企画課



国際協力事業団		
受入 日	'84. 3. 21	122
		36
登録No.	01112	KA

序 文

1962年OECDでは、タイ政府の代表を迎え、タイ国に関する会合を開き、バンコクにDAC事務所を設置することを決議した。設立以降、同委員会は定期会合を開いており、南部開発委員会の要請に基き、南タイ開発に努力を集中させることを主眼としている。

過去、南タイは比較的繁栄している地域とみなされた一時期があつたが、この十年間で経済的地位は失なわれた。

南タイの経済はゴムと錫に依存しているが、この二産品はともに世界市場で逆境にある。更に南タイは米を自給出来ない唯一の地方で、この数年米の値上りをはじめ、生活費の上昇がみられ、又失業率が増大している。こうした観点から南タイ開発は目下の急務となつている。

ここに載つているプロジェクトリストはタイ政府が南タイ開発についてOECDに提出した技術援助要請リストで、将来の成長性を勘案し、更に地域のニーズの緩急に応じ厳密に選定されている。

JICA LIBRARY



1017534[7]

南タイ優先開発プロジェクトのリスト
対 D A C 諸国への技術援助要請

	目	次	頁
1.	ゴムと作物多様化の研究・開発	3
2.	米作改良	4
3.	海エビの養殖開発	5
4.	水資源開発	6
5.	森林と木林工業	9
6.	Lang Suan-Pattalung 高速道路沿い地域の開発	11
7.	鉱業開発	12
8.	南部の港湾開発	14
9.	スラタニ道路建設センター	16
10.	南部開拓移住	17
11.	地域教育プラン	19
12.	スラタニ職業農業学校	21

1. ゴムと作物多様化の研究開発

1933年 英国はソクラ地方の Kohong Haadyai に訓練学校と農業研究基地を設置した。これが南タイの農業開発の第一歩である。以来20年間同センターでは多種の乾燥土穀物、稲作、畜産を研究対象としてきたが、1953年同センターは Kohong Rubber Station となり、研究をゴムに集中し、ゴムの実験、加工の研究作業で国連の技術援助拡大プログラムに基づきFAOの協力援助をうけた。

上記の援助は限られたものであつたが、1965年1月この基地の拡大の為UNDPの特別基金プロジェクトを5年間にわたり展開することになつた。FAOの専門家11名が派遣され、このプロジェクトに寄与するUNDP/SFは85万ドルに達している。このプロジェクトの目標は、研究、訓練、展示を通じ、タイのゴム工業の生産性を高める為、ゴム生産工業の技術効率の一般的水準を改善することである。

同センターで現在進行している作業の継続の為、外部からの援助が引続き必要である。天然ゴムは現在のところ、外貨を獲得する商品の一つであるが、ゴム関連工業では、単位あたりの低生産性とか、輸出品の低品質、不十分な情報、アフターサービス等の問題が山積されたままである。ゴム工業のこうした問題と平行し、間作穀物、南部の農業の多様化への過程の拡大プログラムのneedがある。

UNDP/SFの新しいプロジェクトが用意されているが、ゴムと穀物多様化の為の研究、開発に焦点がしぼられている。この新しいプロジェクトはすでに手中にしている研究成果を適応し、ゴム工業に対する援助を継続することを目的としているが、大巾な援助の増加が必要である。更に、このプロジェクトのもう一つの観点は、これまで殊さら推進されなかつた間作と多様化の問題に対しても特別な調査研究を行う。現在、このプロジェクト要請に対しUNDPが調査中である。要請全般にわたるUNDPの援助は期待出来ないと観測されるので、この拡大プロジェクトの一部、特に畑作物、椰子油等農業多様化分野では、他からの技術援助が妥当であると考えられる。

2. 米 作 改 良

南タイの主要米作地は半島の東海岸に沿った平地である。この米作地は他地域に較べ降雨量に恵まれているが、日照り、洪水、河川や運河に流れこむ海水による塩害をこうむっている。水の管理システムはほとんど未開発である。灌漑地域は耕作総面積の2.36%にすぎない。従つて南タイの米作出来高は非常に変動し易く、生産性は国内で最低の地域である。

南タイは米を自給出来ない唯一の地域で、自給率は80%にすぎない。他地域からの遠距離輸送による為、ここ数年米の値上りが激しく、南部の生活費は他地域と較べかなり高くなつている。

こうした恵まれない経済状況を打破する為、政府は主に南タイの米作改善プログラムを承認している。このプロジェクトは二面に分けられている。第Ⅰ局面は、地方の灌漑技術の改善、堰、灌漑ポンプ、約20万raiの二毛作普及等をはじめとする、米作改善の為の他のインプットを供給し、農家集団の活動強化を目指した69～70年の二年間の短期モデル・プロジェクトである。第Ⅱ局面は南タイ地域全体の米作の拡大と改善のための長期計画を作成し、各プロジェクトを具体化することである。DACの技術援助は集団農家の組織体或いは灌漑協同体に融資ベースで設備を付与する形で行なわれると考えられる。

Responsible agency Department of Local Administration
; Department of nice

3. エビ養殖開発

エビは値の良い商品で世界的に需要高である。エビ漁業はタイの漁業振興にかなり貢献している。年産は4万～5万tでタイの総水揚総額の15%に充る。アメリカ、ヨーロッパ各国、日本への輸出冷凍エビは年5千トン以上になり、金額で20億バーツに充る。世界市場の冷凍エビの需要は着実に伸長しており、将来の見通しも明るい。タイの地理的生物学的環境は恵まれており、こうした海外需要の供給シェアを実質的に増大していく十分な条件を備えている。

Penaeus & Metapenaeus Shrimp 等の数種はアンダマン海沿岸同様タイ湾沿いに豊富である。半島の西岸はマングローブの森林が繁る沼地が多く、エビの幼魚が育ち易い。こうしてみると、この約40万エーカーにエビの養殖を拡大発展させる等安定した産業を定着させるに十分な条件を提している。

このプロジェクトは三つの局面にわかれる。第Ⅰは高い生産性を実現させる為現在のエビ養殖の初歩的方法を近代化することで、第Ⅱは養殖の生産性を高め、半島の両岸でエビ養殖を拡大する為人工的に餌を与え飼養する長期的計画立案を含む。第Ⅲは近代的食品技術により、加工製品の品質向上を目指す。上記の三つの実施は同時に行われるであろう。DACのそれぞれの部門の局面で専門家派遣、訓練、科学的設備供与等の形で技術援助が要請される。

Responsible agency ; Department of Fisheries

4. 水資源開発

南タイの水利プロジェクトには5つあり、下記の通り。

- A Chumphon River
- B Tapi - Phunduang River
- C ソンクラ湖 (Thale Sap)
- D Pattani River
- E Saiburi River

④ Chumphon River はビルマ国境に近くタイ湾にそそいでいる。河口には、2,108平方Km にわたり熱帯林が繁っている。上流から下流まで約158 Km ある。合流点からKlong Tha Sae と Klong RopRo の長さはそれぞれ118Kmと78. Km で、流域面積はそれぞれ1,029平方Km と794平方Km である。川は平野に入ってから曲折をくりかえし海に注ぎ込んでいる。流域は中間部の一部とデルタ地帯を除き山がちである。流域の年降雨量は約1,835.5 mm で河の年間流量は推定7億7000万立方メートルである。年平均降雨量は比較的高く、稲作には充分であると思われるが、特殊な自然状況と洪水により生産性は低い。

⑤ Tapi Phunduang River 流域は面積が13,000平方キロメートルある。ほぼ南北にはしる沿岸山脈により川が東西に流れている。水文学的観点からみると流域は三部分に分割されている。△中央東部と南部区域7,500平方K、△西部区域のKlong Phum Duang 流域4,400平方K、△北東の上記の河川の合流点から河口に達するデルタ地域2,100平方Kメートル。

現在の主要交流手段となつている路は、スラタンとTakuna - Pa を継ぐ二つの大河とバンコックからマレーシア国境へ向う南北鉄道に限定されている。

計画の基本的ねらいは以下の様に要約される。

- a 流量管理
- b 一月から四月末の乾期における水供給を改善する為月間流入量を調節する。

- c 低地の排水施策と米作地の洪水防止
- d 乾期の米作(二季作)を可能にする為の灌漑設備の設定
- e 貯水ダムを建設し、水力発電を行う。

このプロジェクトはこの部門のフイージビリティレポートを作成準備しているフランス政府の援助のもとで実施する。

- ① Thale - Sap Songkhla ソンクラ湖流域 The Thale Sap Basin は南タイの Changmat Phatthalung と Changmat Songkhla 間に位置し、タイ湾に湖水を流出している。

期待されている計画の基本的目的は下記の通りである。

1. Thale Sap の部分的埋立と囲い
2. 灌 漑
3. 淡水の管理、貯水
4. 排水施設
5. 船舶航行路の配慮

このプロジェクトはプロジェクト(担当)の部局の要請にもとづきデンマーク政府が援助を実施中である。

- ② Pattani プロジェクト地はバンコックの南経緯 2,000 K に位置し、Changmat Pattani と Changmat Yala にわたっている。大雑把に云うとこのプロジェクト地域は海外地域と Changmat Yala を中心とする丘陵地帯に分けられる。Pattani River はマレーシアとタイ国境の分水線、Changmat Yala に源を発し、プロジェクト地域を 210 Km にわたり慣流し、タイ湾に注ぎ込んでいる。

ダムは Changmat Pattani に予定され、灌漑目的である。貯水ダムは Changmat Yala の丘陵地帯から主に流入する水をせきとめる為に上流に設ける。

当該プロジェクトの灌漑地域の範囲は当該プロジェクトの灌漑規模と発電規模をどれ程にするかといった相対的なものである。

このプロジェクトは RID 技師により実施され、フイージビリティレポートは Sverdrup & Parcel International Inc と RID スタッフにより実施される。

⑧ Saiburi River

準備の為の実施踏査レポートの研究はまだなされていない。プロジェクト立案の段階から、貯水ダムはタイ、マレーシア国境に近いChangmat Narathimat に、一方ダイバージョンダムは Changmat Yala に設定されるべきである。その灌漑地域は Changmat Pattani - Yala と Narathimat である。

R I D はフイージイビリテイ・レポートの作成を含め、フイージイビリテイ調査、研究と貯水開発のマスタープラン作成に際し、D A C からの援助を切望している。この援助には、必要な事務局の専門家チームと工事機械設備とプロジェクトの業務遂行で必要となる外貨分が含まれる。

フイージイビリテイ・スタディの際の技術援助が要請されるのは、④と⑧プロジェクトである。更に主な 5 河川流域に限らず地方社会に直接の便宜を供する小規模用水池を考慮した南部地域の貯水関係のマスタープランを進展させ、灌漑計画を立案する際の援助を要請したい。

Responsibility Agency ; Department of

Irrigation

5. 森林と林産加工業

南タイの56%にあたる394万7000 ha は内陸性熱帯雨林と東西海岸地域のマングローブ林（紅樹林）である。この地域の気候は一年中雨が降り、年間雨量は2,000～3,000 mm で唯一100 mm 以下の月が一回ある。多量なしかも平均した降雨と気温により、植物の生成は早く、豊富な種類を示している。

マングローブ林は15万 ha 程で西海岸と南部の東海岸の上部に沿った泥地にみられる。マングローブ林には約30種の樹木が混っており、このうち利用価値のあるのは10種あるいはそれ以上と考えられる。マングローブ林の最も重要樹木はRhizophoraceae 族に属している。マングローブ樹は主に消し炭、木炭用になつている。

熱帯雨林は豊富な樹種とその異質構成が著しい特徴である。単一樹木の森林は非常にまれで一平方キロ内に幾百種類も混合している場合もある。幾百種のうちから、いくらか商業的価値のある木林ないしゴム、樹脂が獲られる程度といつたことも少なくない。しかし森林の大部分は商業的に無価値である。森林の最も高所にある樹木のうちデュプロカーブが有望である。中層部にある樹木は種々の面からみて価値は低く、着生植物、つる植物が群生している。

盗伐の結果、熱帯雨林の $\frac{1}{10}$ 即ち35万 ha が第二層森林や草地になつている。この荒廃地の自然的復元は土壌や腐食の程度、伐採被害の程度、地理条件例えば種をちらしてくれる高地林が隣接しているといつた種々の条件により難易がある。

現在その森林が材木や消炭の原材となるかどうか又その森林がゴム、ココナッツ、ヤシ油、果樹、一年作の穀物栽培等の農業的用地とに拡大するかどうか考慮しなければならぬ。

現在の木材製材所の丸太需要は47万平方メートルであるが、この量は年間伐採量を超過し、年平均増加量9万立方メートルを大幅に超えている。森林保護と森林を改善する対策を強化し、復元を強力に推進する必要がある。

森林政策を適用し、土地利用の為空中写真を用いることは非常に価値がある。臨海線や火災、道路、河川貯水、現在の改良作業や土地計画に役立つ。

又森林の樹種の判別や量ないし森林密度を決定するのに役立つ。現在一般的用途に用いている写真はもう旧くなつており、その上5万分の1の縮尺図はヘクタール単位で判断をつけるのが難かしい。森林計画に利用する最も一般的写真は森林の外形なり、色なり、調子なりで種々の要素が把握出来るものでなければならず、縮尺は2万分の一以上でなければならない。この縮尺の空中写真は、土地利用計画にも最も役立つ。更に空中写真測量専門家が新しい写真の仕様書を用意し、南タイの森林改策や土地利用に空中写真を活用する為の新しい技術や方法論を教授するのに要望される。

南タイで現在稼働している産業は数も少なく、規模も一般に小さい。種々の樹木の十分な供給にもかかわらず、合板、Particle board、繊維合板、パルプ、製紙工業はこの地域にはない。30馬力から100馬力の動力をもつた種々の規模の製材所とタイ国営鉄道の所有する鉄道マイルとボールの処理の為の木材貯蔵場がある。各種木材産業、特に合板、パルプ、製紙、木材貯蔵、窯の乾燥を含め市場研究と木材のアグロインダストリーの専門家が要請される。

将来の計画

南部の森林並びに木材アグロインダストリー開発の5カ年計画は出来る限り早期に実施される必要がある。この計画は以下の事項を含んでいる。土地利用計画、森林の蓄積調査等、森林改策を一段と組織化すること；樹木の育成、植林の拡大、ユーカリノキや針葉樹林をはじめとする成長の早い樹種の植林計画；森林保護の改善；分水線地帯の改良；森林関係一次産業の開発；野性物植物の保護管理。

下記の優先順位に従つて以下に配列されたプロジェクトに対し、専門家と設備が要請される。

1. 早成種の植林、樹木の育成等、森林の復元作業の拡大
2. 分水線地帯の改良
3. 森林の一次産業開発

Responsible Agency ; Department of Forest

6. Lang Suan - Pattalung 高速道路沿い地域の開発

タイ政府は南タイの原始的南北道路体系を改善する為 Lang Suan - Pattalung 間に主要道路を建設することになっている。このプロジェクトはこの地域までの輸送費を減じ、施肥地を拡大し、Tappe Punduang 河の溪谷を開拓する等経済的恩恵を与える。フィージビリティ調査はすでに実施されており、最終の engineering や design を 1970 年完了させ、一年後に着工し、1973 年に完成させたい。

高速道路が賦与する便宜が大きいというように土地に対しては、その土地の開発計画自体がまず立案されることが必須である。この立案に対しては下記の項目が包括される。

1. 土地の用途に関し、土地区分け調査を行い、農業、鉱業、森林資源保護のそれぞれに適した土地利用計画を作成する。
2. 土地開発計画の立案。農業に適した土地では、土地開発の詳細な立案が必要である。開墾地の拡張要請に沿って、毎年の土地開墾と開発のおおよその予定表を作成するよう努力すべきである。
3. 鉱物開発調査と鉱業開発
4. 農業開発計画。この計画に含まれるのは、土地、水資源開発、土地改策と土地改良、穀物地帯の栽培の区分け、改良種や改良牧畜種の供給、ベストをはじめとする病気対策、農業金融貸付け、農家組織、草地開発、畜産業、農業地帯の市場と物価等である。
5. 農産品を利用する地方での加工業化開発の可能性
6. 教育、訓練、支線道路の建設等、地方の開発を加速させる為の開発計画。

Lang Suan - Pattalung 間の高速道路に沿った土地開発計画は他の土地での開発計画に対しよい模範となり、計画の効率を良くするといった優れた機会となる。

この土地開発計画の立案や担当部は 1972 年に創立され、1973 年に工事を実施し完了する。

Responsible agencer ; Department of Land Derelopment

7. 鉍 業 開 発

全土にわたる空中からの地球物理学的調査プロジェクトは国家経済社会開発プランの一環である。こうした意味でこのプロジェクトの担当局である鉍物資源局に対し、外部からの技術援助をもとめるように勧告してある。

地理的調査は鉍山開発計画の基礎であり、空中からの地球物理学的調査は地理学的調査の前提となる。従つて空中からの地球物理学的調査は鉍物資源開発の重要なワン・ステップであると考えられる。

南タイは錫鉍石の主産地として知られているが、Makhon Srithammarat の鉄、Suratthani の鉄鉍石、アンチモニー、石膏、Narathimat のマンガン等商業的に重要な鉍石も種々知られている。まだ調査されていない土地が残つている。これまでは厚いジャングルで覆われた地域が多い南タイで踏査された地域のみで地理学的調査を実施してきた。

空中からの地球物理学的調査により、この障害を克服出来ると想われるし更に新しい鉍脈を早期に発見出来る様になると想像される。加うるに、採鉍有望地の発見に対し、地上調査にのみたよつている為に発見されずに残つている鉍物の存在がこの空中からの探索調査により、直に解るかもしれない。

集約してみると、空中からの地球物理学的調査は下記の成果をあげると予期される。

A 直接発見

- (1) 硫化鉍石の存在を示唆する構造的条件や磁鉄鉍の存在を示す構造的条件の発見
- (2) 放射性鉍脈の存在を示唆する。
- (3) 地理学的境界を明確にし、南タイの地理的知識の拡大

B 間接的発見

錫、タングステン、金ないし他の鉍石の存在の可能性を示す典型的地質学的条件としての隣接花崗岩の位置を知る。

三年間にわたる南タイの有望鉍石発見開発の段階は二つに分れる。

オ一段階； Surat-thani, Phang-nga, Nakhon Srithammarat, Krabi, Trang, Pottha-lung, Songkhla, Satun, Pattani, Yala,

Narathimat, の全域約 6 万 4 0 0 0 Km 平方の空中磁力計と、シンテイレーション・カウンターによる調査を実施する為、実施会社と契約する際の財政的工面。

オ二段階；前段階が完了した後、鉱物資源局が磁力電磁シンテイレーション・カウンティング器を用いて地上調査を実施する。

必要見込み資金として計上された額が実質的であるなら開発借款をうけることが可能かもしれない。

Responsible Agency ; Department of Mineral Resources

8. 南部の港湾開発

A 東部港湾

南タイの人口は東海岸に集中している。しかし、バンコックを除いて東海岸港湾はいづれも小さく、未開発である。東海岸の輸入港は Ban Don (Suratthani), Pattani, Songhkla, Narathimat, Pakpanung (Nakorn Srithumrat) である。主要漁港は Chumpon にある。1964～1967年間に、前記の港で荷揚げされた量は年平均で約70万tである。現在、浚渫されている Songhkla 港を除いて東海岸のいずれの港湾も床が浅く、結局はしけを使つて荷揚げすることになり、輸送費がかさむ。

これまでに調査が終つたソクラの他に東海岸で国際湾として適した港湾の開発調査の技術援助が必要である。更に、敷地選定が終つた後、都市計画を含めた港湾の建設計画を立案するが、この際にも技術援助が要請される。可能な予定地は Suratthani, Pattani と Narathimat である。

B Kantang 港

Kantang 港はバンコックと半島の西海岸を結ぶ唯一の鉄道路線の終着点である。Kantang では 27Km にわたる河床はすでに浚渫されており、港湾建設の準備計画は港湾局がすでに作成している。600t級の船を収容する能力をもたせるには150万米ドルの費用が見積られている。

Kantang ではベナン、シンガポール向けの荷がかなり船積されている。又、Kantang は約300隻の漁業船舶の基地である。冷凍貯蔵施設の増築が計画されている。漁業産業を発展させることは出来るが、一面の開発ではだめで、漁船用棧橋とか、荷揚能力の拡大とかいつた総体的開発が必要である。

タイ政府はオ一段階プロジェクトとして600t船二隻を収容するT型棧橋の建設計画を認可している。詳細な設計図を作成し、入札書類を準備する為コンサルタント会社を選定中である。引き続き、一年以内に工事を完成させなければならないから入札をすぐに行うことになる。

港湾地域の交通と商業活動の膨脹は急激であるという観点から、工場、公共施設、漁業船舶の棧橋をどの位置にどの位の規模にするかなど適切な設定を決定する為、Kantang 市のマスタープランを作成する為に、

早急な技術援助を必要とする。

更に、完璧な港湾が望まれるとなつた場合、すぐにも港湾設備の改善とか棧橋の拡大が予想されるが、そうした場合、上記の既存の港とは別に、Kantang の適切な場所に設備を完全にととのえた港湾が必要になる。この意味で、1968年日本調査団が推した Palian も考慮するべきである。

B Bhuket 港

現在ブーケットには二港ある。一つは錫の船積み用で、もう一つは一般貨物用である。前者は島の南端に近く、錫製練工場の棧橋と石油会社の棧橋がある。後者は Tachin River の下流にあり、漁船用の私設の木造棧橋がある。

Bhuket 港はタイの西海岸の港湾の中でも最大量を扱っている。64～67年に扱った内外貨物の平均量は年間11万7000tである。現在、Bhuket 港はマレーシアの Buttermouth 港のフィーダーポートとして若干利用されている。

地理的位置、格好な地勢、自然環境から判断して Bhuket は将来タイ西海岸の国際港として、又条件の良い港湾都市として発達する要素を備えている。

はしけの利用率が高いといつた港湾問題を早期に解決する為、タイ政府は、タイ川の水路を浚渫し、1,000 DWT 船舶が自由に航行出来る様にする港湾局の計画を認可している。

永久的港湾としての適切な位置、港湾の適切規模、港湾開発の準備マスタープランの作成に際し、技術援助が要請される。この意味で Takupa を撰択の為の比較調査、研究するべきである。

Responsibility Agency; Department of Harbour

9. スラタニ道路建設センター

道路局の地方道路工事局が提案している南部の支線道路プロジェクトは、72年～77年の間に延べ2,500Km、84本の支線道路の建設工事を含んでいる。こうしたプロジェクトは南タイの開発に必須であると思われるが、提案されているプロジェクトの財政的裏づけが不十分であり、充分に実施出来ない心配されている。他にもう一つ道路建設センターを設置すべく重機械の供与といった外国援助が必要である。

日本政府の援助で設立されたソクラの道路工事装備センターがいまのところ唯一である。同センターは65年から68年にかけて日本政府の援助により運営された。現在は日本人にかわりタイ人専門家がTapa-Sabayoi-KaoDangの支線道路の工事を監督している。しかしながら、現在のセンターの能力では年間25Kmの支線道路の建設にとどまり、この地域の早急にneedを満たすことは出来ない。

従つて、タイ政府はスラタニに新しい道路建設センターを設置する為の援助を要請している。同センターはSuratthani-Kanjanadit-Sichol間の支線道路の建設にあたる。この道路は延べ60KにおよぶTape-Nak-oru Srithamarat道路と接続することになる。工事は3年計画で、道路はF₂の基準に合せ、両側に各1mの路肩、幅6mの舗装とする。この主幹道路の完成後100キロ半径内に他の支線道路を建設する考えである。

援助の規模としては、トラクター、地ならし機、シャベルカー、修理工具、修理工場装備、その他の機器につき適切なサイズのものを何台かずつの供与という形で約250万ドルと考える。更に3年間、タイ職員を訓練し、必要な基礎作業を準備するなど、重機械の使用、維持、訓練部門の専門家多数が要請される。この他のセンターを設立する費用に加え、運営と道路建設工事に対し、年間2,000万～2,500万バートをタイ政府は支出しなければならないだろう。

Responsible Agency ; Department of Highways

10. 南部開発移住

Stoon, Yala, Narathimat 地方を含む南部開発移住プロジェクトは1964年に始まった。このプロジェクトは政府政策にそつて、他地方からの開拓移民を定着させるべく設定されたものである。

この政策は、他地域から南部地域に移入した人達を収容しようとしたもので、初期計画によれば、5年間で終了する予定であつた。しかし幾つかの問題点、障害に合い、過去の各年目標は達成されなかつた。

まづ三地方の69万ライの土地使用に対する農林省の許可に関連して土地所有問題がもちあがり、後このプロジェクトは修正されねばならなかつた。徐々に開発を進めていけば良い性質のものであるのに、Narathiwat, Yala, Stoon の各々のサブ・プロジェクトは同時に開始され、施行されねばならなかつた。

このプロジェクトが直面したもう一つの大きな障害はプロジェクトの場所と土壤条件であつた。移住開拓地として選定された土地の大部分は深い森林に覆われた丘陵地で、開耕作業にあたる職員と集約機器にとつてこうした状況は極めてひどい障害であつた。

更に、南タイの雨期は計画の進行を遅らせる一因となつている。南タイの雨期に土地測量、開拓を進捗させていくのは不可能でないにせよ、非常に困難であつた。

財政に関してみると、5年計画によれば1億2000万バーツ(年間2,400万バーツ)が同プロジェクトに対し認可されていたが、実際に同プロジェクトの実施に割り合てられた資金は8,500万バーツであつた。移住者の安定の為の貸付け資金に対する運転資金として認められていた初期の15,000万バーツが2,400万バーツに減され、満足にこのプロジェクトを進展させるのが不可能になつてしまつた。

もう一つの要因は職員の不足であり、職員スタッフは開拓移住地の三地域に等分されねばならなかつたから一層手薄であつた。農業関係職員や土地測量士の増員は極めて重要な問題点である。

開拓移民を増加させることがもう一つの大問題である。彼等は異つた気候、異質な習慣の土地からやつてくるので、彼等の大部分がこうした新しい条件

に同化出来ず、もとの土地に戻つてしまつた。こうした情況から移民の選定は注意深く複雑になつた為選定作業が遅れ、わづかな人員が認められたにすぎなかつた。厚生部局はこうした情況に鑑み、このプロジェクトの直面する不利な諸点を改善すべく下記の様な援助を念じている。

1. 森林開拓の為の労働集約機器。1964年以降このかた、ますます割高になる修繕費をかけて、手もちの設備を使用してきた。こうした欠陥のある古い機械の為に作業の遅れをきたし、特に深い森林の開拓が遅れた。
2. 移民が行う丘陵地での農業に役立つ労働集約機器
3. 定着地（移住地）における灌漑目的の小規模ダムと堤防の建設。開拓地には、多くの水資源があるからこうした種類の建設が開拓民にとって非常に意義がある。
4. 将来の作業の進展に関しては、同プロジェクトを一層拡大し、明確な長期プランを決定する目的で測量を実施するべきである。その後プロジェクトを一層効果的に遂行出来るような財政配慮を行うことが出来るであろう。こうして初めてこのプロジェクトが成功すると確信される。

Responsible Agency ; Department of Public Welfare

11. 地方教育プラン

これまでタイの教育計画は、国家レベルに焦点を合せてきた。しかしながら、総体的展開の為に、ある地域にみられる特殊性という問題に対し、たいした注意を払わない傾向がみられた。南部にはこの地域にのみ見られる幾つかの特殊な問題がある。例えば、マレー語を話す教区付属学校を国家教育組織に同化させるという問題、地域教育システムの集積部分としての南部大学の開発、特に南部のセカンダリー・スクールと大学の連結関係の確立、この地域の特殊な経済文化的ニードに貢献する職業訓練学校の新しい方向づけ、成人学級の拡充。こうした問題の中で、決して見逃せないのは教育の全てのレベルの教師が極度に不足している。この為教育施設の拡大は制限され、就学年令児童の増加率がこれをうわまわつてしまつてゐる。

教育省は経済発展と人的資源問題に確固とした基礎を形成する為、地域教育計画の長期的計画を作成した。この計画は下記の様に三段階に区分される。

1. 計画準備

1.1 調査方式の骨組み作成

1.2 教育立案者の訓練。1969年3月、250人の監督官を教育する為5つのセミナーを催した。12人の地域教育官吏と71人の地方教育官吏の為、教育計画立案セミナーを1969年8月に開く予定である。

1.3 1969年8月には資料の蒐集と処理作業を行う予定である。

2. 計画の作成。この段階では各地方に作業事務所を開設し、計画の草案を作成する予定である。

3. 計画実施。各地方ごとの計画はスクリーニングされ国家開発計画にそつたものにする為、国家計画省に送付され、そこで予算請求、報告、効果測定等の組織を確することになる。

求められる援助 (Assistance sought)

地方の教育官吏にとって地方の教育計画立案は新しい概である。立案作業を遂行する有資格職員の数が不十分であるとか、又統計作業に必要な近代的設備が欠如している。そこで下記の様な援助が早急に必要とされる。

1. 装 備

1.1 3地方の監督事務所 (Units) に必要な計算機

3台 4,350ドル

1.2 14地域の監督事務所(Units)に必要な計算機

14台 約20,300ドル

2. 研修旅行のフェローシップやスカラシップ。地方あるいは地域水準での教育官吏に対し、奨学資金を給付する。
3. 南部の教育問題調査を遂行する短期のコンサルタント2名。この人員は国際教育計画立案学会を通じ募集されるかもしれない。

Responsible Agency ; The Under-Secretary's Office
Ministry of Education

12. スラタニ職業農業学校

現在、全国各地に職業農業学校が24箇所ある。このうち4箇所が南タイにあり、場所はChumpon, Nakornsri thamara j, Trang, Songkhlaである。こうした学校での現在の訓練計画は、11、12、13の各学級の学生に農業全般の知識を賦与し、彼等が農業活動分野で十分に働けるようにすることである。Chumporn と Nakornsri thamara j の2校はすでに職業教育改善の借款プロジェクト下にあり、すでに多額資金が投下されており、DACの技術援助を要請する学校は容易に選出出来る。一方、ソンクラ学校は、L I V Eプロジェクトに含まれておらず、水準を高めるには規模が小さ過ぎる。他方、Trang 学校は1972年に始まるL I V Eプロジェクトのオ2期分に含まれることになっている。しかしながら地方のどこにも新しい農業学校設立の要望があり、職業訓練局はSuratthani に新しい学校を設立する計画を立てた。すでに二土地の知事が3,000ライの土地を提供することになっている。訓練活動は、ゴム、穀物の多様化と米作、エビ養殖を抱括する計画になっている。更に、穀物、動物飼育などに関し、南部の学校の教師、学生、農民の訓練活動とか、農業機械の使用、保守の協力センターとしてこの学校を利用出来る様にする計画である。

設備資金も含め、建設工事予算は1970年～71年に要求される予定である。提案されている開発プロジェクトに沿った訓練活動には多額の農業機器が必要となる。灌漑の設計と管理、ゴムと作物の多様化、米作、エビ養殖の分野で学生を訓練するには設備の供給、設置が必要である。計上される資金推定総額は以下の通り。

1. 農業機械	500,000	バーツ
2. 重機械装備	420,000	"
3. 畜産品、穀物研究所設備	500,000	"
4. 視聴覚器	100,000	"
5. 修理工場設備	200,000	"
6. 科学機器	250,000	"
7. 教科書、参考書	250,000	"
8. 家畜	200,000	"

計 2,420,000 パーツ

Responsible Agency ; Department of Vocational Education

